

平成21年度「じまんの原石」選定一覧

No.	じまんの名称	所在地	圏域	審査評・認定委員会提案
1	羽島市歴史民俗資料館・ 羽島市映画資料館	羽島市	岐阜	公立では数少ない映画資料館であり、継続的に資料収集を行っている。映画鑑賞会をボランティアの協力を得て運営するなど、ファン獲得にも積極的である。 今後は、資料館の枠組みを超えたエンターテインメント性を加えていけば、大きな文化観光資源となり得る。 ただし、「羽島市映画資料館」として選定する。
2	中山道4宿(鶴沼宿、加納宿、河渡宿、美江寺宿)	岐阜市、各務原市、 瑞穂市	岐阜	それぞれの宿の特色もあるが、やはり点ではなく線、面で中山道を捉えるべきである。 中山道をもう一度掘り起こし、しっかりと物語化することで、岐阜そのものを再発見し、新たな魅力創造に繋がっていく可能性を秘めている。 昨年度「明日の宝もの」に認定した中山道の各宿と連携して取り組むことを前提に選定する。
3	大垣の湧水、地下水	大垣市	西濃	大垣市は「水都」と呼ばれているが、これまでとことん「水」こだわった観光PRを行ってこなかったように感じる。 今年度の県観光キャンペーンの重点テーマは「水」であり、全国豊かな海づくり大会、ぎふ清流国体の開催を控え、水をテーマに大垣を見直すことで、「水都大垣」の新たな魅力創造につながる可能性を秘めている。 そのため、大垣の水にまつわる「大垣の湧水、地下水」「水まんじゅう」「川港」の各取組主体が連携して取り組むことを前提に選定し、3つの「じまん」をつなぐキャッチフレーズやじまんの名称を市民参加で決めるところから連携をスタートさせることを提案する。 また、西濃圏域の観光基盤としての「養老鉄道」との連携にも期待する。
4	水まんじゅう(各和菓子店の店先で販売している風情ある情景)	大垣市	西濃	同上
5	住吉燈台・船町港・赤坂港(川港)	大垣市	西濃	同上
6	水屋群などの風景と輪中文化	大垣市	西濃	水屋群の風景を輪中文化として見直し、それを研究対象としたツアーを催すといった取り組み方は、非常に興味深い。 輪中は、岐阜県のみならず、三重県、愛知県の3県にまたがっており、それぞれ特色ある水屋が残されている。これらをつなぐ広域的な周遊ルートが設定できれば、宿泊滞在型の観光に発展する可能性がある。また、汽水域を岐阜県の海ととらえて情報発信できれば、新たな魅力づくりが期待できる。 産業観光化への取組と、西濃圏域の観光基盤としての「養老鉄道」との連携にも期待する。

平成21年度「じまんの原石」選定一覧

No.	じまんの名称	所在地	圏域	審査評・認定委員会提案
7	養老鉄道	大垣市、海津市、養老町、神戸町、揖斐川町、池田町	西濃	今年度、西濃地域から推薦のあった多くのじまんが養老鉄道の沿線にあり、これらをつなぐ骨格となる地域資源である。既に実施されている自転車と一緒に乗車できるサービスを活用すれば、広範でバラエティに富んだ観光エリアを形成することができる。また、古い機関車や設備、写真などの資料を展示することで、鉄道そのものの魅力を高めることが期待できる。
8	中山道と太田宿・御嶽宿	美濃加茂市、御嵩町、可児市、坂祝町	中濃	それぞれの宿の特色もあるが、やはり点ではなく線、面で中山道を捉えるべきである。 中山道をもう一度掘り起こし、しっかりと物語化することで、岐阜そのものを再発見し、新たな魅力創造に繋がっていく可能性を秘めている。 御嵩町内の伏見宿を加え、昨年度「明日の宝もの」に認定した中山道の各宿と連携して取り組むことを前提に選定する。
9	フィールドミュージアムで魅力あるまちへ	関市	中濃	関の刃物は、ブランド力という意味では全国的にまだまだ低いものの、技術力は高く、歴史と伝統が深く、磨けばまだまだ光る地域資源である。 人間は刃物がないと生きていけない。その意味では、刃物は生活の原点であり、「物の心」に触れるようなストーリーで、取り組みれば、新たな魅力づくりが期待できる。 「刃物」の魅力や物語が感じられるネーミングに変えることを前提に選定する。
10	まちの名物つるむらさきうどん	関市	中濃	無農薬で栄養価の高い「つるむらさき」を、町を挙げて作っており、栽培から販売まで世代を超えた協力体制が確立されている。また、主体者のやる気を感じられる。 今後、県産の小麦粉にこだわるなど、プロダクトとして完成度の高めれば、更なる魅力向上が期待できる。
11	笠原のタイル	多治見市	東濃	笠原のタイルの技術力の高さに感心した。 モザイクタイルの需要は伸びており、これを機に、素材としてのタイルを見直すことができる。 また、例えばアーティストなどと連携したタイルアートなどを展開し、地域でのワークショップの開催や、作品展示を行うなど、新たな魅力づくりが期待できる。
12	美濃焼窯場めぐり	多治見市、土岐市	東濃	美濃焼の生産者による美濃焼のブランド価値を高めることで、観光振興につなげようとする取組は高く評価できる。 東濃地域が一体となって、しっかりと美濃焼のブランディングを行い、岐阜県ならではの窯場めぐりを磨いていけば、全国シェア約40%を誇る地場産業であるだけに、大きな観光資源として期待できる。
13	山岡細寒天及び恵那山麓寒天豚	恵那市	東濃	山岡細寒天は味もよく、冬空の下での天日干し町の風物詩となっている。 味わうだけでなく、細寒天を作る体験型観光に加え、新たな特産品である寒天豚によるもてなしを行えば、細寒天の全国シェア約80%を持つ一大産地なだけに、新たな魅力づくりが期待できる。

平成21年度「じまんの原石」選定一覧

No.	じまんの名称	所在地	圏域	審査評・認定委員会提案
14	東濃地方の地歌舞伎と芝居小屋	瑞浪市、恵那市、中津川市	東濃	東濃地方の地歌舞伎は、芝居小屋が単に残っているだけでなく、芝居の保存活動と、施設の保存状況が日本一である。また、裏方の人材育成にも熱心に取り組んでおり、古い衣装、道具、台本なども保存されている。 今後、体験型観光として、化粧、衣装や簡単な振り付けを体験してもらおうプログラムや、「なぜ岐阜県に芝居小屋が多いのか」を物語として情報発信することで、新たな魅力づくりが期待できる。
15	東山寺町と文化財めぐり	高山市	飛騨	やや観光地化され過ぎた感のある「さんまち」から10分程度の距離でありながら、これまであまり知られていなかった東山の寺町に着目した取組は評価できる。 京都東山に模してつくられた落ち着いた雰囲気のある寺町とさんまちが連携することで、国際観光都市高山の新たな魅力づくりが期待できる。
16	乗鞍山麓五色ヶ原の森	高山市	飛騨	乗鞍岳の北西に広がる広大な森林地帯には、「人と自然の共生」を基本理念に、「森の案内人」と呼ばれるガイドが同行することを条件として入山できる2つのトレッキングコースが設定されている。 ガイドの組織力が高く、周辺の温泉宿泊施設も充実していることから、今後は8時間かかる現在のコースに加え、ピギナーにも訪れてもらえるよう2時間から4時間のコース設定により、新たなファンの獲得が期待できる。
17	天生県立自然公園	飛騨市	飛騨	地元の自然愛好家、インタープリター等で組織する団体によるガイド人材の養成が行われているとともに、森林保全やパトロールの財源となる森林環境整備推進協力金制度も導入されており、継続したエコツーリズムの体制が確立されている。 今後、世界文化遺産白川郷と隣接している地の利を活かし、自然と文化にふれる新たな魅力づくりが期待できる。